

ひとこと 「人」の「事」を 思う仕事に 就いて

ナカバヤシ株式会社・人事部
石田 智也

「会社を見る」側から 「学生を見る」側へ

4月末に入社して初めて携わった当社の会社説明会。昨年までは就職活動をして「会社を見る」立場であった私が、一年後には「学生を見る」立場になっているなんて、本当に不思議な気がします。新人なのでまだ一人で面接を行ったりはしませんが、説明会などで質問を受けた時には、「昨年までは学生だった」という立場を生かして、学生に近い目線で質問に答えるようにしています。

「採用」だけではない人事の仕事

学生にとって「人事の業務」として一番に思い浮かぶのは「採用活動」でしょう。私も採用という仕事がたくさん採用だけを志望しましたが、もちろん給与計算などの労務関係の業務や教育研修、福利厚生など意外とたくさんあります。私は採用活動以外に、住民税業務と福利厚生業務の一部も担当しています。業務の中には一カ月や半年、一年といった周期で行う必要のあ



職場にて

る業務も多いので、入社して半年以上が経っています。日々勉強の毎日が続いています。

「社員の為に働いている」という感覚

営業の社員は「売上」をあげて会社に貢献することが求められますが、事をはじめとする管理部門は「社員がその能力を十分に発揮できる環境を作る」ことが求められます。入社前からそういった考えは理解していたつもりでしたが、実際に様々な人事の業務を行って、多くの社員と接していく中で、「会社で働くすべての社員の為に働いている」という感覚をより強く感じるようになりました。採用活動も「将来一緒に働くであろう人（学生）のために働いている」と私は考えています。何かと忙しく充実した毎日を過ごしていますが、その中で一緒に働くみんなのために、日々努力していきたいと思っています。

ひとこと、あれこれ

子どもと 同じ目線で 向き合って

十津川村立平谷小学校・教諭
山本 菜採

がむしゃらに走ってきた この一年

今年4月、学生から突然教師になった。心の準備は少しはしていたけれど、右も左も分からず、その責任の重さが心が潰されそうになってしまったこともあった。

十津川村の学校では、一クラスの人数が少ない。私は9名の児童を受け持っている。少人数なので、算数など力の差が大きく出てしまう教科でもきめ細やかな指導をすることができ。できる子にはより発展的な課題、苦手な子でも自信がつくようできた所までも認められるような課題づくりに日々取り組んでいる。「算数なんか」という言葉が聞こえなくなることが私の今の成果かなと思う。しかし、人数が少ない分、苦手、得意というレッテルを剥がしにくい。周りの子からの評判が「できた」という気持ちを損ねてしまうこともある。

一学年、一クラスということにしんごさを感じることもある。教材作りも教材研究も、すべて一人だからだ。で



みんなで生き物カルタ

も、一人で作り出し考える力は、この一年でかなりついたように感じる。人一倍時間はかかるし、しんどいけれど子どもと「わかって楽しい」時間を持つことが人一倍うれしい。私なりのペースで、私なりにいていねいに一歩ずつ歩んでいきたい。

何でも子どもと一緒に

9人なので、タンスでのゲームや遊びはいつも一緒にする。子どもと同じ目線で、一生懸命できる教師でありたい。また、子どもたちの方が知っていることもまだまだ多い。時には子どもたちに教わりながら、一緒に学びながら日々を過ごしている。それが今のスタイルかな。